

令和7年2月13日

世田谷区立中町小学校  
校長 児島 信郎 様

世田谷区立中町小学校  
学校関係者評価委員会

## 令和6年度 学校関係者評価委員会報告書

令和6年度世田谷区立中町小学校学校関係者評価委員会は、中町小学校の教育活動及び学校運営について、学校関係者評価アンケート〔児童（5・6年生）／保護者／地域対象〕、学校独自アンケート〔重点目標について児童（1年生～4年生）対象〕及び学校自己点検アンケート（教職員対象）の集計結果に加え、教職員との質疑応答、評価委員による学校参観（通年実施）等を総合的に分析し評価した結果を以下のとおり報告する。

### 1. 学校関係者評価アンケートについて

#### 【回収数・回収率】

- ・児童（5・6年生） 回収数 169 回収率 98%（前年度 83%）Webにて実施
- ・保護者 回収数 292 回収率 49%（前年度 60%）Webにて実施
- ・地域 回収数 9 回収率 23%（前年度 49%）紙、Web選択式にて実施

#### 【実施日】

- ・令和6年11月13日（水）～令和6年11月27日（水）

#### 【肯定的評価】

- ・アンケート回答のうち「A：とても思う」「B：思う」の回答割合とし、数値については、小数点第一を四捨五入して表記している。

### 2. 重点目標・数値目標について

- \* 「学校独自アンケート」より1～4年生、「学校関係者評価アンケート（児童対象）」より5・6年生の数値を集計し、算出している。

#### ○重点目標1 主題的に考え、課題解決に努める子

- 1-① 「私は授業中に自分の考えを書いたり、友達に伝えることで考えが深まった」  
目標値 90%以上⇒結果 80%

- 1-② 「自分自身の将来の夢について考える授業や活動に取り組めた」  
目標値 90%以上⇒結果 71%

#### ○重点目標2 粘り強く最後までやり遂げる子

- 2-① 「私は係や当番など、自分の役割に責任をもって活動している」  
目標値 90%以上⇒結果 83%

- 2-② 「私は学校や普段の生活で、目標をもち、その実現に向けて努力している」  
目標値 90%以上⇒結果 79%

### ○重点目標 3 豊かで健康な心や体を自らつくろうとする子

3-①「私は緑のレンジャーさんや地域でお世話になっている方々にもあいさつをしている」

「本校の子ども達は、あいさつができると思う」

地域対象アンケート：目標値 80%以上⇒結果 61%

児童対象アンケート：目標値 80%以上⇒結果 88%

3-②「私は運動することが以前と比べて好きになったり、できるようになったりしたと思う」

目標値 85%以上⇒結果 78%

3-③「私は読書が好きである」

目標値 85%以上⇒結果 72%

以上のように今年度は3-①児童対象アンケートの数値以外はすべての項目で目標値が達成されておらず、前年度との比較でもマイナス5からマイナス10%となっていた。また各項目の学年ごとの結果では、特に6年生の数値が低くなっていた（この6年生の傾向はアンケート全体の傾向であることから分析については後述する）。しかしながら、1年生から5年生までの重点項目の結果を分析すると一部の項目を除いていずれもプラスまたはマイナス3%以内となっており、概ね目標を達成していると判断した。そこで、以下に1～5年生においても目標数値を達成できなかった項目及び前年度の本報告書で今年度の課題とした3-①に関して考察した。

#### 【重点目標 1-②について】

児童対象の学校独自アンケート（1～4年生）及び学校関係者評価アンケート（5・6年生）において、「自分自身や将来の夢について考える授業や活動に取り組めた」の項目で肯定的評価が71%（1～6年生）／82%（1～5年生）となり、目標値（90%以上）より低い数値となった。児童が学習面、生活面において具体的な目標数値を主体的に設定するなど、キャリアパスポートの目標設定が確実に進歩している状況はあるものの、児童にとっては、まだキャリア教育の活動が将来の夢やショートスパンでの目標とうまく結びついていないと感じられる。1～5年生の数値は前年度からプラス7%となり一定の成果は出てきているように見られるので、引き続き自分の目標を持ち努力することが将来の自分に確実につながっていくことを、学校生活の中で児童に伝えていくような指導をお願いしたい。

#### 【重点目標 2-②について】

児童対象の学校独自アンケート（1～4年生）及び学校関係者評価アンケート（5・6年生）において、「私は学校や普段の生活で、目標をもち、その実現に向けて努力している」の項目で肯定的評価が79%（1～6年生）／84%（1～5年生）となり、目標値（90%以上）より低い数値となっている。前年度と比較すると1～5年生はほぼ同様の数値であった。各学級では、個人の目標を教室に掲示する、学期の終わりには振り返りを行う、目標を数値化する等、様々な取り組みを積極的に行なっていることから、今後は各学級の工夫の情報を共有し、さらに児童が自ら立てた目標の実現に向けて努力していることを実感できるような活動を期待したい。

#### 【重点目標 3-①について】

児童対象の学校独自アンケート（1～4年生）及び学校関係者評価アンケート（5・6年生）において、「私は、緑のレンジャーさんや地域でお世話になっている方々にもあいさつしている」という項目の肯定的評価が88%（前年比-5%）と前年度同様高い数値であった。また学校関係者評価アン

ケート（地域対象）では「本校の子ども達は、地域の中でもいさつができると思う」の項目が61%（前年比+7%）と前年度よりも上昇していた。前年度、児童と地域の数値のずれを課題として取り上げさせていただいたが、今年度は全学年が登校時に昇降口でもいさつを担当する取り組みが行われるなど、いさつに対する指導を強化したことが、地域の方々にも評価されつつあるものと思われる。来年度は、地域対象のアンケートにおける目標値も達成できるように、引き続きいさつ指導の強化をお願いしたい。

### 3. 学校関係者評価委員会の所見

#### 【6年生の数値について】

今年度の6年生のアンケート結果については全般的に肯定的評価の数値が著しく低かった。なかでも、「先生は、児童の意欲を大切にしている。」（肯定的評価32%）「先生たちは、ていねいに指導してくれる。」（同35%）「先生たちに相談できる。」（同23%）の項目において顕著となっている。また、6年生保護者対象のアンケートでは「本校は、子どもの意欲を大切にしている。」（肯定的評価47%）、「本校は、丁寧に指導している。」（同35%）、「本校は、子どものことを相談しやすい。」（同37%）の質問項目において特に低い数値となっていた。このアンケート結果から学校と児童、及び学校と保護者の信頼関係がうまく築けていなかったのではないかと推察された。適切な情報開示・情報共有は信頼関係醸成の基本である。当委員会ではこの視点から関係者にヒアリングを行うなど、検証を行なった。

今年度の6年生は中町小学校において最後の40名学級であり、各クラスの人数が38名、39名と1クラスの人数が多い。このような状況の中で学校は児童の不満や不安について適切に受け止められず、児童が安定した学校生活を送ることができていなかったと見受けられた。

6年生学級委員が、学年全体の問題として保護者に状況を伝えるよう学校に求めたことがあったが、2学期末の保護者会においても学校側から説明されることはなかった。また学校運営委員会

（保護者、地域住民、児童の意見、要望等を把握し、学校運営の改善に反映するよう努めている会議体）において6年生の状況に対し地域でも支援できないかと提案があったが、情報が共有され協議されることがなかった。加えて、学校運営委員会の報告書（「ポプラ通信」）が保護者に配信されていないこともあった。

学校は児童が安定した学校生活を送ることができているのかについて注視し、問題行動が見られた場合は速やかに状況分析をし、保護者、地域の関係者と情報共有し、連携を図るように努めていたのか、必ずしも適切な対応ができていたとは言い難いと考えられる。

当委員会はこれまでたびたび学校の情報開示について改善を求めてきたが、提言を生かした対応が十分に行われなかつたようである。本校は地域運営学校（コミュニティスクール）として、学校と家庭、地域が連携し、児童の育成に取り組むことが求められている。学校は今年度の状況をしっかりと検証し、次年度に向けて学級や児童の現状を分析し、速やかに対応するシステムの構築、情報開示・情報共有のあり方、保護者及び地域との連携に関する具体的な改善案を検討する必要があると考える。

#### 【学習について】

先生も児童もタブレットの活用に慣れ、現在はあらゆる活動に積極的に使用しているようだ。授業にタブレットが使用されていることが「当たり前」になり、手元で意見をまとめ、友だちの考え

を参考にするなど、授業におけるコミュニケーションの大事なツールとなっている。加えて、自分の意見を口頭で伝えることができなくとも、ロイロノートを使って友だちに伝えられるといった効果もあがっている。

以前から学校が重点目標に掲げてきた「主体的に」学習するということが、児童にとってもごく自然な学びの形となってきている。学習プロセスを重視し、主体的・対話的に深い学びを目指すアクティブラーニングを通じ、これから時代に求められる資質や能力を持つ子どもたちを育成していってほしい。

#### 4. 終わりに

今年度はコロナ禍の前に行っていた体験授業等もさらに増え、キャリア教育への取り組みも引き続き積極的に行われていた。3年生の「弟子入り体験」は、令和5年度に世田谷区教育委員会に評価され、キャリアアワード大賞を受賞した。長きにわたり協力をいただいている地域の方々に改めて感謝するとともに、中町小学校が地域と共に子どもたちを育んできた地域運営学校（コミュニティスクール）としての取り組みの成功例であると評価したい。

来年度は予定されている英語教育の充実や、地域や大学との連携の強化により、児童が楽しく学習できる機会がさらに増えることを期待したい。今年度のアンケートにおいては成果を評価することが難しい項目が多かったが、働き方改革が進み、行事等が縮小傾向にある中、学校が児童の充実した学びのためにさまざまな工夫や努力を継続的に行なっている点については評価したい。

当学校関係者評価委員会は、今回の報告書がより質の高い学校教育の一助となり、次年度の教育活動がより実のある教育活動となるように祈念している。

世田谷区立中町小学校 学校関係者評価委員会  
飯田 千春、菅沼 渉、添田 茂、丸山 容子、村田 美紀